

様式 4

<p style="text-align: center;">令和 6 年度第 5 回 富士見市社会教育委員会議 議事録</p>						
日 時	令和 6 年 1 0 月 1 5 日 (火)		開会	午後 7 時 1 5 分		
			閉会	午後 9 時 1 5 分		
場 所	富士見市立中央図書館 2 階 視聴覚ホール					
出席者	委 員	本田議長	渡邊副議長	國府田委員	内海委員	秋元委員
		○	○	○	欠	○
		小栗委員	関野委員	戸田委員	八木橋委員	深瀬委員
		○	○	○	○	○
	事 務 局	生涯学習課 主任				
公 開 ・ 非 公 開	公開 (傍聴者 0 人)					
議 題	<p>1 あいさつ</p> <p>2 協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 3 4 期のテーマ決定に向けて <p>3 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各会議への参加報告 					

議 事 内 容

1 あいさつ

2 協議事項

・第34期のテーマ決定に向けて

【議 長】 第34期の社会教育委員会議は、委員各自が地域で活動している中で感じる課題や、社会教育の理想の状態を考えることから始め、どこに焦点を当てるか話し合いを重ねてきた。富士見市では社会教育活動は盛んに行われているが、広報や周知方法に課題があるのではないかという結論に至った。より広く知ってもらうために、生涯学習ガイドをもっと活用できないか。そもそも生涯学習ガイドの認知度はそこまで高くないと思われる。このガイドをもっと知ってもらい活用してもらえれば、社会教育活動への入口とすることができるのではないか。生涯学習ガイドをどうやって周知していくか、またガイドを見た人に一歩踏み出してもらうためには、どのような工夫が必要か。その点にフォーカスして、第34期の提言とすることとした。そこで前回の会議では、生涯学習ガイド知ってもらう、興味を持ってもらうためには、どのような策を講じたら良いか、各自意見を出し合った。それをまとめ直したものを、本日資料としてお配りしている。まずはまとめ方に相違ないか、各自資料をご確認いただきたい。そして、実際にどの意見を取り入れていくか、どこまで具体的に提言に盛り込むか、また提言しても受け入れられないような内容になっていないか、1つずつ検討していきたい。今日は、どの策をどの程度掘り下げて提案するか、大まかな方向性を決めることを目標とする。また今回は宿題を出す予定。掘り下げる内容について、各自検討してきてほしいと考えている。宿題用のフォーマットを事前に共有するので、各自取り組んでいただきたい。ご提出いただいたものをまとめ、次回の会議でお示しする。ここまでで質問等あるか。

【委 員】 特になし。

【議 長】 資料について、前回発表してもらった講じるべき策を、大きく2つに分類し整理した。ガイドブックの中身に触れているもの。ガイドブックへの入口や導線の強化に関わるもの。またそれぞれ内容によって更に分類している。中身に触れているものについては、名称や構成の見直し、情報の拡充などの意見があった。入口・導線強化に関わるものについては、配布方法の見直し、公共施設等での広報、市役所の活用などの意見があった。またアナログとデジタルと、どちらを想定したものかについても示している。ここまでで、資料の訂正や補足はあるか。

【委 員】 出前講座の有効活用という意見について。つながりを広げて心豊かに過ごせる地域を作ろう、というようなテーマの出前講座があって、その中で生涯学習ガイドの話があると良いのではないか。様々な団

体が研修を行っている。市役所に講師を依頼することも多い。出前講座の内容を充実させて、外に広げていく方法もあるのではないかな。紙媒体だと伝わらないこともある。以前、市の職員に研修をしていただいたことがある。とても分かりやすく、職員の方の情熱が伝わってきた。紙の資料で見るだけではなく、人を介して話を聞くことの効果は大きいと感じた。文字ではなくて、こんなに楽しそうに活動している、ということ視覚的に伝えることで、みんながつながり、地域づくりにつながるのではないかな。もっと知りたいという方には生涯学習ガイドを案内することもできる。人が間に入ることで得られる効果は大きいと感じている。

【議長】 出前講座もそうだが、それに限らず映像や詳しい情報を得られる場があると良い。導いてくれる人材の存在も大きい。他に補足がある方はいるかな。

【委員】 特になし。

【議長】 それでは挙げられた策の中から、どれを取り入れるか検討していきたい。まずは名称変更について。これは実現性も高いので、ぜひ盛り込んでいければと思う。

【委員】 まずは手に取ってもらえるよう、キャッチーで中身の分かる名称を考えたい。

【議長】 続いて構成について。

【事務局】 構成については、改めるにあたり難しさを感じている。生涯学習ガイドは生涯学習課で発行しているが、市役所庁内の関係各課にも協力してもらいながら更新している。各課が答えやすい構成と、市民が見やすい構成は必ずしも一致しないのではないかな。生涯学習課で各課から提出された情報を構成し直すことも可能ではあるが、かなりの時間がかかってしまうことを懸念している。

【議長】 分類を追加することは可能かな。

【事務局】 可能である。ただ、分類についても課題を感じている。なにをどの分類にするかは担当課の判断に依るため、どの分類になにが入るのか、基準があいまいになっている。分かりやすい分類であるとともに、何がどの分類に入るのか、基準が明確だと良いのではないかなと感じている。

【議長】 分類の定義を決め、正しく振り分けられるようにすることが必要なのかもしれない。各課から情報を集める際は集めやすい方法が良い。ただ、市民に発信する際は、読み手を意識した構成にするべきではないかな。続いて情報拡充について。各事業や団体の詳細なホームページ等のリンクを掲載できないか、市が関わっていない団体やイベントの情報も掲載できないか、という意見があった。これは可能なのかな。

【事務局】 市が関わっていないものを、市が運営するホームページに掲載することは難しい。イベントカレンダーについても同様で、なんでも掲載できる訳ではない。また団体等のホームページのリンクを貼ることは可能でも、そもそもそのサイトはどうやって見つけてくるのかな、

きちんと更新されているかどうか、どうやって確認するのかなど、課題が残る。

【委員】 例えばリンク切れになってしまった時に、苦情が市に行くことになる。そうなると、市としては対応に困ってしまうのではないか。

【事務局】 責任が取れないものを掲載するのは難しいと考える。

【委員】 富士見市のホームページへのリンクを掲載することは可能か。

【事務局】 可能である。

【議長】 市で管理できる範囲内に紹介ページが作れると良いのかもかもしれない。詳しい情報を載せたい団体を募集し、その情報をまとめて掲載するなど。

【委員】 確かに、そういった情報がまとまっていた方が親切だとは思う。

【議長】 以前の生涯学習ガイドと比べて、内容やボリュームが削られている。情報を増やし、それを対象ごとに整理することは可能か。

【事務局】 情報を減らしたのは、恐らく当時の担当が不要と判断してのこと。どの情報をどこまで掲載すれば、市民にとってより利便性の高いものになるのか。その点についてご意見をいただきたい。情報量を増やすことは問題ない。ただ何を増やしたらいいのか。

【議長】 生涯学習ガイド以外の媒体に掲載されている情報なのであれば、その情報に誘導するだけで十分かもしれない。

【委員】 生涯学習ガイドの情報拡充について、社会教育施設の全体のリストなど、現在はウェブ上でしか見られない。そのような状況において、デジタル媒体のものにアクセスできない人をどう扱うか。時代だからと切り捨てるのか。アナログ媒体にも残せば、デジタルの手段を持たない人にも情報を保障できる。

【議長】 確かに、市ホームページなどのリンクを貼る、という意見を出しているが、デジタルの手段を持たない人にとっては益にならない。その視点は忘れてはいけないと思う。

【委員】 私はアナログとデジタルの両方を使っている世代。なにかを知りたいと思ったらネットを使って検索し、そこからプリントアウトして確認する。そんな私達のような、アナログ媒体も利用する世代であっても、情報量が多い分厚い紙の資料は、そもそも開こうという気にならないのではないか。小冊子である程度の情報をまとめ、詳細が知りたいければ公民館へ誘導するなどして、公民館で教えてもらう。そういった形の方が、見てもらえるのではないか。確かにデジタルの媒体を使わない方達にも配慮は必要だが、なんでもかんでも載せてしまうと、情報が未精選の状態になってしまうのではないか。

【議長】 リンクについては貼れる所だけ貼るという形がよいか。生涯学習ガイドだけだと、どうしても掲載できる情報に限界がある。詳しく知りたい方に向けた情報源の提示は、あった方がいいように感じる。全てを載せるのではなく、何をどこまで載せるのか、そのバランスが重要なのだと思う。

【委員】 大学生は入学、進級のタイミングで、シラバスを見ながら授業を選ぶ。限られた文字数で情報を伝え、そこから選んでもらう、という状

況は一緒かと思うが、積極的に伝えるための手立てをなにか取っているのか。参考に伺いたい。

【委員】 最近の学生は、授業の中身よりも何曜日の何限という、時間の観点で授業を選ぶ傾向がある。なるべく大学に来る日を減らすために、同じ曜日に授業を集めたいという考えがあるのだと思う。その中で、複数選択肢があればシラバスも読むとは思いますが、授業を選ぶ次の観点は、内容ではなく成績評価、提出物の少なさ、期末試験のないものといったもの。

【委員】 シラバスという媒体だけではなく、先輩からの伝聞が重要になってくる選び方だと感じる。

【委員】 ご指摘の通り。ゼミの先輩から情報を得て希望を出しているようだ。

【委員】 卒業可否に関わってくることも関係すると思うが、能動的に選びに行く姿勢がある。

【事務局】 生涯学習ガイドは特定の情報が欲しくて開くのか、なんとなく開くのか。

【議長】 得たい情報が明確であれば、生涯学習ガイドを使うことで情報にたどり着ける。

【委員】 理想は、明確なものがなくとも、気が向いたときに気軽に手に取り開いてもらえる状態だと考える。

【委員】 例えば音楽をやりたい人がいたとして、そのためにスタジオを借りる必要がある。民間施設だと利用料が高いので、市の施設を使いたい、というような人は、今の生涯学習ガイドを見ても必要な情報にたどり着けないのではないか。

【事務局】 施設情報など、ホームページのリンクを掲載することに問題はないが、なにをどこまで載せるのが適切か。その加減についてご意見をいただきたい。

【委員】 施設情報はホームページへのリンクを掲載してもいいのではないかと思う。どのような設備がある施設なのか、その施設でどういうイベントがあるか等が分かって良いのではないか。

【委員】 社会教育の中心はやはり公民館だと考える。なにかしら活動したいと思う人にはぜひ公民館に行ってもらいたい。生涯学習ガイドだけで完結するよりも、公民館に来てもらって、職員に相談してもらおうという流れを作れないか。人と話すことで、想定外の出会いが生まれる可能性がある。これも社会教育の醍醐味の一つではないか。情報提供を生涯学習ガイドで完結させようとは思わず、公民館などに委ねることも必要ではないか。

【委員】 職員が教えてくれる、公民館にはナビゲート機能もあるということが分かると良い。公民館の使い方などが生涯学習ガイドに書いてあると良いのかもしれない。

【議長】 情報拡充について、アナログ策は別で考えるとして、外部団体等へのリンクは難しいので今回は見送ることとする。市役所管理下の情報にはきちんとリンクさせることについては提言に盛り込む。生涯学習ガイドで完結させず、人材を活用することでガイドを補完する策

も検討する。また生涯学習ガイドそのものや公民館の使い方を載せる策についても検討していくこととする。

【委員】 ホテルに行けばコンシェルジュがいるのと同じように、公民館にもナビゲーターがいると良い。

【事務局】 公民館には社会教育士や社会教育主事、公民館主事が配属されている。そういった職員がナビゲーターとして機能するはず。そのことを、公民館の使い方の中で触れてもらえると良いのではないか。

【議長】 続いてホームページへの掲載方法について。PDF ファイルの掲載ではなくウェブサイトを作成できないかという意見があった。

【事務局】 コストがかかる問題なので難しい。実現性はかなり低いのではないかと考える。

【委員】 今時は PDF 以外の手法もあるのではないか。今時だとマークダウンなどが主流ではないか。

【委員】 様々な手法があるということは提言の中に入れても良いかもしれない。

【議長】 続いて入口・導線強化策について。生涯学習ガイドの配布数を増やすという意見があるが、これは可能か。

【事務局】 可能である。

【議長】 電光掲示板や公共施設、医療機関などの公共スペースの活用について。生涯学習ガイドを知ってもらうために、ポスターなどを掲示することは可能か。

【事務局】 電子掲示板の新設などは難しいが、既存の掲示板を活用する分には問題ない。

【委員】 電光掲示板などはイベントカレンダーを周知することに活用するのが良いのではないか。

【議長】 公共スペースの活用として、どのような場所に、どのような情報を、どのような方法で掲示するか、検討して提案することにする。私としては、露出を高めるのは良いが、効果はあまり期待できないのではないかと考えている。対象を定め、その対象に向けた情報を届ける方が、効果は高いのではないか。情報検索用の端末設置という意見もあるが、現在情報検索用端末は設置されているのか。

【事務局】 公民館にあるのは施設を予約するための端末になる。新たに情報検索用端末を設置するのは、費用面から難しいのではないか。

【議長】 ナビゲーターについての意見も出ているので、提言内で触れることにはする。また関連する他部署での宣伝はどうか。

【委員】 以前委員からウェルカムパッケージという意見があったが、そのようなものは既にあるのか。

【事務局】 やるべき手続きをまとめた案内はあるが、社会教育に関する情報についてはない。

【議長】 入口の多様化、既存手段活用と併せて提言に盛り込むこととする。生涯学習ガイドとイベントカレンダーをリンクさせることについて、これは可能か。

- 【事務局】 生涯学習ガイドの方にイベントカレンダーの案内を載せる形であれば可能と考える。
- 【議長】 イベント活用について、既にこういった取り組みが行われているという話があったが、これはどうか。
- 【事務局】 あるイベントで、別のイベントの案内チラシを配布することはあるが、生涯学習ガイドの案内などはしていない。
- 【委員】 イベントに参加するということは、なにかしら地域の情報を欲している方なのだと思う。そういった方達に向けて周知できれば、興味を持ってもらえるのではないかな。
- 【委員】 生涯学習ガイドに使い方などを載せるのであれば、イベントなどでも配れると良いのではないかな。
- 【委員】 生涯学習ガイド全てでなくても、そういった場で配るための案内チラシがあると良いかもしれない。
- 【議長】 イベント企画については難しいかな。
- 【委員】 出前講座をやったらおもしろいのではないかな。
- 【委員】 生涯学習課で対象年齢ごとに講座を企画し開催するのはどうか。
- 【事務局】 出前講座は各課で開催可能な講座を提案しているもの。生涯学習課も各種事業等について出前講座として提出している。その中に生涯学習ガイドの使い方の内容も入れるということか。
- 【委員】 心豊かに過ごす街にするため、など、興味を持ってもらえるようなタイトルにしてほしい。例えば町会長連合会や民生委員など、市とつながりのある団体がなにか研修を企画する際に興味を持ってもらえるのではないかな。母子保健推進員という組織もある。推進員は乳幼児向けにどのような企画があるのか、知っていた方がいい。そういった団体等に出前講座を活用してもらって、そこで様々なイベントや取り組みがあると紹介してもらえると良いのではないかな。
- 【事務局】 出前講座などを使って生涯学習ガイドを広める方法もある、ということは、提言の中で触れていただけると面白いかもしれない。
- 【委員】 例えば町会長連合会でも、地域づくりをどうするか、つながりの希薄化にどう対応するか、課題意識があると思う。地域のつながりを作っているという生生涯学習課の職員が、出前講座で取り組みを紹介できると良いのではないかな。
- 【議長】 積極的に宣伝する人もいた方がいいということか。
- 【委員】 町会長や民生委員、母子保健推進員は、そういった情報を知っていなくてはいけない存在だと考える。そういった方達に他の市民に広めてもらえるよう、出前講座を使う。いきなり11万人の市民に広めるというのは難しい。核となる方達に向けて伝えていく、分かってもらおう、というのは、一つの方法ではないかな。
- 【委員】 出前講座はすでに89講座もある。生涯学習については「はじめよう生涯学習」という講座がある。福祉や子育てなど、様々な内容の講座が用意されている。問題は、このような出前講座があるということに気付いてもらえるか、ということ。情報にたどりつくことができるかどうかが大切なのではないかな。出前講座について考える前に、

出前講座の存在を知ってもらう、その手立てを考える必要がある。そのために生涯学習ガイドを更によくしていこう、という話ではなかったか。先程委員から出た、使い方を載せるという意見はとても良いと思った。生涯学習ガイドに加えて、それ以外の方法、公民館のナビゲーター等の方法を考えていくのが良いのではないか。

【議長】 ネットでの拡散についても意見が出た。

【事務局】 例えば市のイベントに出席いただくPR大使に、大使自身が運営しているSNSで発信してもらう方法、また講義を依頼した講師に発信をお願いすることも可能かと思う。

【委員】 タッチポイントを増やそうという意図。市でも情報発信してはいるだろうが、発信元を増やせるのであれば、それに越したことはないのではないかと思い、この意見を出した。

【議長】 市だけが発信するのではなく、一緒にイベント等を開催する団体等にも発信してもらうというのは必要かと思う。さて、提言としてまとめるにあたり、委員より出された意見の中からどれを採用するか、確認してきた。しかし、今のところほとんどすべての意見を採用する流れとなった。

【委員】 まとめられそうな意見もあった。

【議長】 確かに、まとめた方が良いものについてはまとめていきたい。それでは、それぞれ具体的にどのような内容にするか、事前に考えてもらうこととする。各委員から出された意見を事務局でまとめて、次回の会議で共有したい。フォーマットを作成し共有するので、事前課題に協力をお願いしたい。

3 その他

・各会議への参加報告

【委員】 明日、入間地区社会教育協議会主催の研修会がキラリ☆ふじみで開催される。80名程の方々から申し込みがあり、富士見市からも14名程の方に参加いただけると伺っている。基調講演を三芳町の社会教育課長にお願いしており、基調講演後はグループディスカッションを予定している。ぜひ他の市町の社会教育委員と交流する機会としてもらえれば。

【委員】 生涯学習推進市民懇談会に参加した。この会議でも配られたが、アクションプランシートが配られ、アクションプランの進捗状況や評価課題等について話合った。

【事務局】 生涯学習推進基本計画があり、それを策定していくため、市民の意見を聞く場として懇談会を開催している。アクションプランシートは計画の遂行をチェックするためのもの。計画が改訂の時期になってきたので、今回開催された。